

33年ぶりにかつての赴任地パナマへ

私たちの高校の同期仲間にはメール網があって年賀状でも活用しています。私は下のような賀状を添付しましたが、縦 15 ㌘横 10 ㌘と文字数が限られているので、このページでは今年の抱負みたいなものをもう少し綴ってみたいと思います。

今年が一番大きなイベントは1月に33年ぶりに妻とパナマを訪れることです。私は1976年から85年まで聖教新聞の特派員としてパナマに駐在していました。パナマSGI（創価学会インタナショナル）の会員とも一緒に活動していたので、当時お世話になった皆さんに感謝を伝え、病床にある人には激励の家庭訪問を、また亡くなった方には追善の回向を、との思いからなのです。

あれから四半世紀を過ぎ大きく変貌、発展を遂げてきている懐かしいパナマの様子、またパナマ日本人学校の現状も見てみたいこともあります（学校の開設まもなく校歌の公募があり、私の作品が選ばれた経過がありました）。

帰りにはパナマから何回も取材や激励で訪問したメキシコにも寄り、お世話になったメンバーとやはり33年ぶりの邂逅も楽しみにしているところです。

明けましておめでとうございます。



「亥年」——年賀状を「子年」から始めて一周しました。「アッ」という間の12年間だったことに驚愕の思いです。干支がいったん終わりを告げる年ですが、これは次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年とも言われています。

当方、喜寿を超えようとする今、猪突猛進は避けて体力を温存しながらできることをしていく所存。

昨年末、東京五輪・パラリンピックの大会ボランティアに応募しました。現在は、東京都の観光ボランティアとして都庁で訪日外国人のガイドをしています。いらっしゃる機会がありましたら覗いてみてください。

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

2019年 元旦 清水 武

Mail: donky17@nifty.com/

HP: <http://donky.la.coocan.jp/>



今年の年賀状。空いたスペースにひと言、書き添えています。

同時に地元・昭島市が高齢者の介護予防の一環として運営するシニア向け英会話教室の講師や、地元の中学校の英語授業の支援で、受講生や生徒に「またとないこの機会に外国人との交流を楽しみましょう」と呼びかけていこうと思っています。

昨年の秋、東京五輪・パラリンピックの大会ボランティアに応募しました。12月に締め切られた結果によると8万人の募集に対して約18万人の応募があったそうです。自分の長い海外体験と特派員経験、英語とスペイン語の対応ができることを考え、希望部門に「メディア関係」を申し込みました。でも明年は79歳。選手への対応・工夫が心配されている暑い最中で、体力的な観点から選考に漏れることもあるかもしれません。ちなみに70歳以上の応募者は全体の1%とのことです。

残念ながら仮にボツになったとしても、現在している東京都観光ボランティアとして都庁で外国人向けの案内をより充実させていこう、などと思っている次第です。昨年、韓国ソウルで一市民から受けて親切が、どれほどその国のイメージを変えていくか実感されたからです。

4月には地方統一選挙、7月には参議院選挙があります。地域の発展と繁栄に貢献し、日本と世界の平和に本気で尽力する候補を、生命尊厳を基軸とする仏教者（創価学会の会員）の一人として最大限に応援していきたい。

喜寿を超えようとする年齢で大事なのは言うまでもなく健康と体力。ちなみに現在している運動は週1回の水泳。それに1日1万歩も心がけていますが達成はなかなか難しい。天候にも左右される。そこで団地マンション7階の自宅まで計88階段を歩いて上っています。当初はやや息切れがしたり、1階ロビーにエレベーターが待っていると「ラッキー！」と誘惑に駆られました。今は自然に足が階段に向くようになりました。

昨年の5月頃から片膝が痛くなり始め、その回復への挑戦模様を昨年6月のこの欄に載せましたが、お陰様で8割方よくなっている感じで感謝に耐えません。

いよいよ5月には改元され、よい時代が来ることを願っていますが、今上天皇の「平成が戦争のなかった時代でした」とのお言葉に、国民の一人としても本当に感慨深いものがあります。



いつも言っている私の最終目標＝創価学会創立100周年＝となる2030年まであと11年。還暦から喜寿までの18年間で

あまりにも速く過ぎ去ったことを思うと、卒寿（90歳）もアツという間に来るかもしれない。残された一日一日を大切に生きていきたい、と思う限りです。